

RRR 文部科学大臣賞(1件)

Reduce Reuse Recycle

文部科学大臣賞 「個人・グループ・学校」分野	受賞者名 飯田市立飯田東中学校
	取組の実践場所 長野県飯田市
	受賞テーマ りんご並木&リサイクル活動 ～りんご並木を中心とした「まちづくり」と「時代を超えた恩返し」のリサイクル活動～

受賞者は、次のような取組をしている。

- ①学区内にある「りんご並木」は昭和22年に市街地の約7割を消失した飯田大火をきっかけにして誕生した。大火からの復興時に市街地の防火帯として作られた広い街路の中央分離帯に、昭和28年に同校の生徒達の提案によりりんごの木が植えられた。その後、同校が中心となり、りんご並木の維持管理に関わっている。
- ②資源回収活動は平成6年から始まった。「りんご育成とリサイクル」を同校の伝統にしようと、アルミ缶、牛乳パック、ペットボトルキャップなどの回収を、保護者の方々の協力も得て回収活動が始まった。今では、りんご並木の育成活動と共に、校内校外でのリサイクル活動や清掃活動が、同校の伝統として継続している。リサイクル活動は生徒から選出された「環境ボランティア委員会」が中心となって活動している。毎週水曜日の朝に行うリサイクル活動で、家庭にあるアルミ缶、牛乳パック、ペットボトルキャップを学校の昇降口に立って回収したり、「飯田りんごん(祭り)」で先頭に立ってアルミ缶回収をしたりしている。委員会では毎月「缶ボラ。通信」と名付けた会誌を発行して、生徒にリサイクル活動の啓発活動を行っている。



これらの活動を学校・地域・行政・資源回収会社・福祉施設・ジュース工場(JA)などが一体となり取り組んでいる。りんご並木が出来た当時は収穫前の実が盗まれたこともあったが、今では町のシンボルである。同校の資源回収から得られた資金が被災地域の復興支援金になることを、市民や行政が十分理解して応援している。

また、りんごの加工を委託しているJAや近隣農家からも、専門家の立場でりんご並木育成のアドバイス等ももらっている。

同校は昭和49年に不審火によって校舎の大半を消失した。その際、多くの人から援助や励ましを受けたことから、東日本大震災をきっかけに大きな困難に立ち向かっている被災地を支援したいという機運が全校に広がった(時代を超えた恩返し)。

今後について、「りんご並木」は飯田市のシンボルとして定着しているが、同校の生徒数が年々減少していくことから、無理なく活動できるように活動内容を精選したり、より地域の住民の支援と一緒に活動する場面を増やしたりする方法を検討していく必要がある。同校が取り組む「まちづくり学習」の一つの象徴として、りんご並木の管理維持だけでなく「まちづくり」という視点で「りんご並木」の在り方を今以上に考えていこうとしている。